

○ 子供を安心して育てられる市政について

新風会・公明
下牧 一郎
議員



議 認定こども園には1号、2号、3号の保育認定があり、1号認定は預けられる時間が一般的には8時30分から14時30分までの6時間程度なのに対して2・3号認定は預けられる時間が、原則、11時間以内となっている。

理 当市は共働きの家庭が60%以上あり、必然的に2・3号認定の子どもが多くなっている。認定こども園全体としては充足率が100%を超えておらず、保育スペースも保育士の人数も十分に足りていないが、たまたま2・3号認定の充足率が100%を超えている認定こども園に、近くに住んでいる市民が0歳児を夏から入園させてほしいとの要望を出した場合の当市としての考え方(認可の可否判断の考え方を問う)。

理 出生数等による未就学児童の人口推移や施設の利用状況等により、将来的な展望に立って作成された「第2期勝山市子ども・子育て支援事業計画」に基づき、保育の必要性がある子どもの見込み量に対し定員設定・見直しを適正に行っている。

教育保育事業を提供する区域は勝山市全体を1区域として設定し、居住地や勤務地近くの施設を自由に選ぶことができる。

勝山市全体で認定こども園・保育園の2・3号の総定員は715名だが、6月1日現在の在籍数は633名、充足率88.5%で待機児童はいない。(園によっては100%に達している場合もある)

園において各認定こども園・保育園における定員の遵守が定められており、保育事業の健全な運営を図るためにも定員超えの入園は適当ではないと考えるが、兄弟や姉妹の下の子の入園については、保護者の子育て負担を考慮して柔軟な受け入れをしている。

第1希望の園が定員を超えて入園できずに第2希望の園に入園した場合、保護者の状況を聞きながら最大限に配慮し、翌年4月には優先的に希望の園に転園できるようにしている。

できるだけ保護者の希望に沿うように対応していく。

○ 市道の道路整備計画について ○ ごみ処理施設のビュークリーンおくえつについて

市民の会
高間 清一
議員



議 現市道の道路整備計画について、

①市道の総延長はどれくらいか。

②直近3年間の舗装実績はどうか。

③市道全体の総合的な整備計画はどうか。

理 ①現時点で44.6km。
②令和元年度は21路線で2.1km、令和2年度は27路線で2.3km、令和3年度は32路線で3.0km。
③該当するような総合的な整備計画はないが、舗装やトンネル等の個別施設計画や橋梁の長寿命化計画など、施設ごとに計画を策定している。

舗装の個別施設計画は、主な幹線道路である1、2級の市道82.6kmを対象とし、平成30年度の路面性状基礎調査結果を基に作成している。集落内の生活道路など1、2級以外の市道は、地区要望や職員の道路パトロールを基に舗装の状況を確認し、優先順位をつけて対応している。特に緊急性のあるものは、職員が直ちに対応している。

議 大野、勝山のごみ処理を一手に担い、市民生活の利便性を向上させているが、

①この施設の起債償還年数はどうか。

②こういった施設には、耐用年数の問題がついてまわりますが、長寿命化を果たすためには10年から15年ごとに大規模な改良事業が望まれていることから、今後の大規模改良事業を考えているか。

理 ①平成18年6月に竣工したごみ処理施設「ビュークリーンおくえつ」建設のための起債額は48億6690万円で、ピーク時には元金と利息を合わせて年間4億5000万円余りを償還し、令和2年度に終了した。

②ビュークリーンおくえつは、竣工からまもなく16年が経過し、劣化や経年的な機能低下が予測されるため、設備の現状や補修履歴等を把握したうえで効率的な基幹的設備改良工事を行う予定である。令和4年度は長寿命化総合計画を策定し、同計画に基づき性能条件を設定する発注仕様書等を作成し、令和5年度から改良工事を行う計画である。